



【問い合わせ先】
釜石海上保安部
交通課長 佐藤 学
電話：0193-22-3830

令和3年1月15日
釜石海上保安部

令和2年における岩手県での海難発生状況（速報値）

1 船舶海難の発生状況

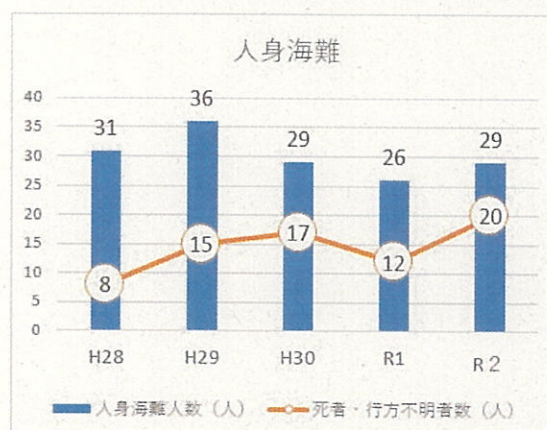
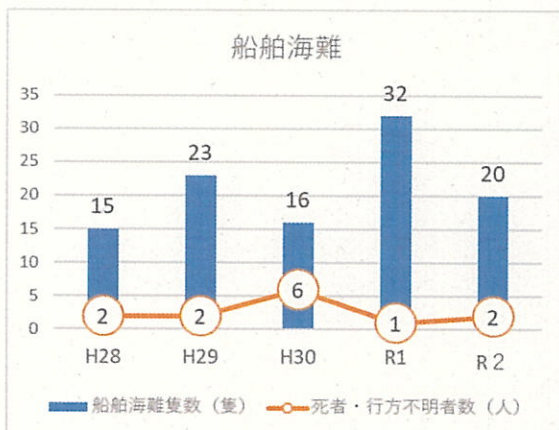
- (1) 船舶海難は20隻で前年比べ12隻減少
- (2) 船舶海難に伴う死者・行方不明者数は2人で前年に比べ1人増加

2 人身海難の発生状況

- (1) 人身海難は29人で前年に比べ3人増加
- (2) 人身海難に伴う死者・行方不明者数は20人で前年に比べ8人増加

○岩手県における船舶海難及び人身海難の推移（過去5年）

		H28	H29	H30	R1	R2
船舶	船舶海難隻数(隻)	15	23	16	32	20
	死者・行方不明者数(人)	2	2	6	1	2
人身	人身海難人数(人)	31	36	29	26	29
	死者・行方不明者数(人)	8	15	17	12	20



【船舶海難の特徴】

船舶海難隻数は20隻で、前年に比べて12隻減少したが、過去4年の平均値（21.5隻）と同程度であった。

船舶用途別では、例年同様漁船が16隻と最も多く、全体の8割を占めている。

海難種類別では、転覆が11隻と最も多く、係留中に、低気圧通過に伴う風浪等によって転覆したものが7割（8隻）を占めている。

【人身海難の特徴】

人身海難人数は29人で、前年に比べ3人増加したが、過去4年の平均値（30.5人）と同程度であった。

人身海難に伴う死者・行方不明者数は20人で、前年に比べ8人増加し、過去4年の平均値（13人）と比べても増加している。

事故を活動形態別にみると、マリンレジャー以外の活動中に発生した海浜事故が20人と最も多く、このうち、海中転落が6割（12人）を占めており、転落に伴う死者・行方不明は9人となっている。海中転落の内訳は、漁船に乗船しようとして岸壁から転落するなど、自己の過失によるものが9人となっている。

マリンレジャーに伴う海浜事故では、釣り中の事故が8割（4人）を占めている。

【海難防止対策】

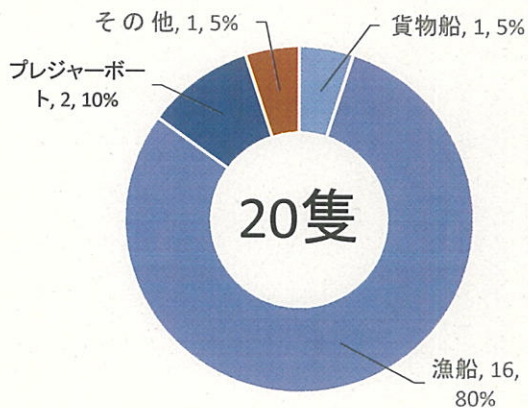
岩手県においては、漁船による船舶海難の割合が高い傾向にあることから、釜石海上保安部では、引き続き訪船指導や海難防止講習会等を通じて漁業者の方々の安全意識向上に向けた取り組みを継続していくこととしています。

また、釣り中に防波堤等から海中転落して死亡する事故が後を絶たないことから、①救命胴衣の常時着用、②携帯電話等の連絡手段の確保、③118番の活用について呼びかけを行うほか、警察及び港湾管理者と連携し、立ち入りが禁止された防波堤等の危険個所へ立ち入らないよう現場指導を継続していくこととしています。

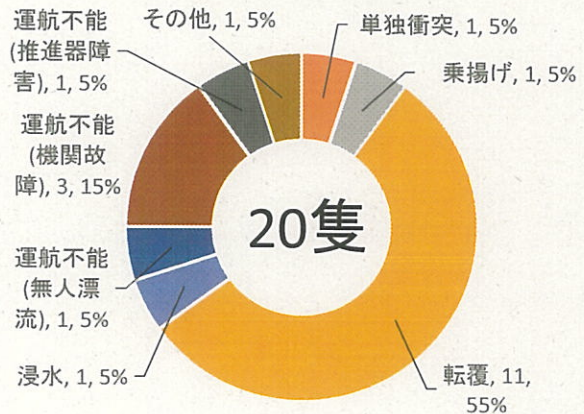
令和2年 船舶海難 用途別・海難種類別の発生状況(岩手県内) (単位:隻)

海難種類 用途	衝突	単独衝突	乗揚げ	転覆	浸水	火災	運航不能(無人漂流)	運航不能(機関故障)	運航不能(推進器障害)	その他	計	死者・行方不明者(人)
貨物船								1			1	
タンカー											0	
旅客船											0	
作業船											0	
漁船			1	10	1		1	1	1	1	16	2
遊漁船											0	
プレジャーボート				1				1			2	
その他		1									1	
合計	0	1	1	11	1	0	1	3	1	1	20	2

令和2年船舶用途別発生状況

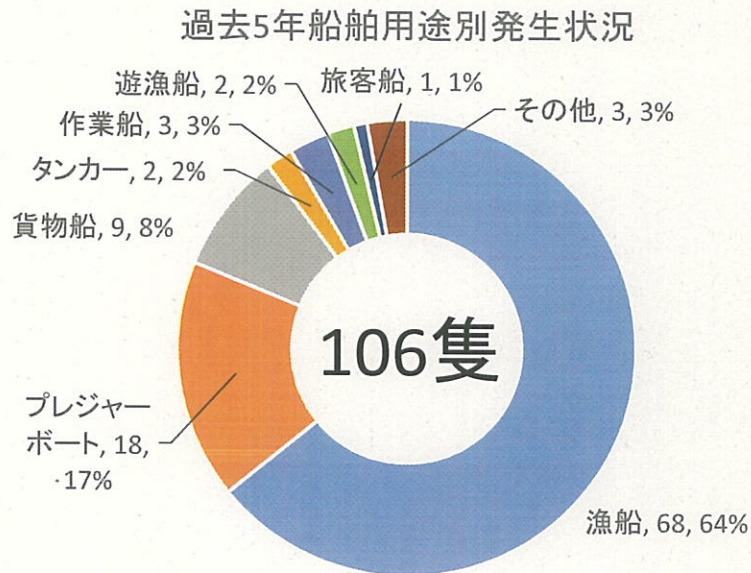


令和2年海難種類別発生状況



過去5年間 船舶海難 用途別の発生状況(岩手県内) (単位:隻)

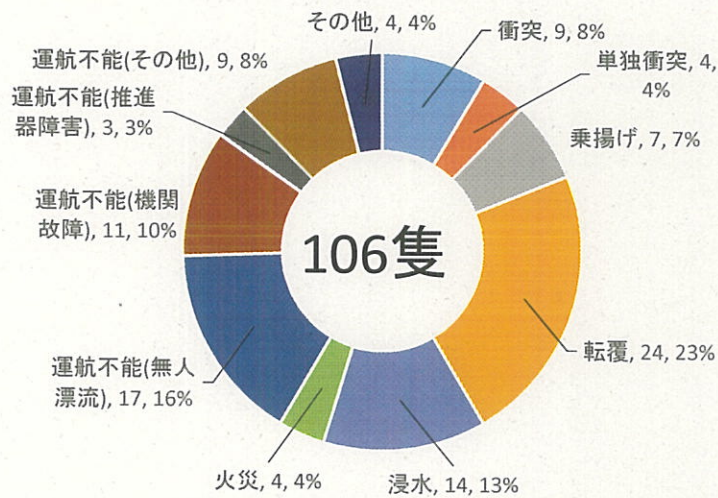
用途 年	漁船	プレジャーボート	貨物船	タンカー	作業船	遊漁船	旅客船	その他	計	死者・行方不明者(人)
平成28年	9	2	2	1	0	0	0	1	15	2
平成29年	11	5	3	0	2	0	1	1	23	2
平成30年	9	4	1	0	1	1	0	0	16	6
令和1年	23	5	2	1	0	1	0	0	32	1
令和2年	16	2	1	0	0	0	0	1	20	2
計	68	18	9	2	3	2	1	3	106	13



過去5年間 船舶海難 海難種類別の発生状況(岩手県内) (単位:隻)

海難種類 年	衝突	単独衝突	乗揚げ	転覆	浸水	火災	運航不能(無人漂流)	運航不能(機関故障)	運航不能(推進器障害)	運航不能(その他)	その他	計	死者・行方不明者(人)
平成28年	2	0	2	2	1	3	2	2	0	1	0	15	2
平成29年	6	1	2	3	4	0	0	2	0	5	0	23	2
平成30年	0	0	0	4	2	1	2	2	2	1	2	16	6
令和1年	1	2	2	4	6	0	12	2	0	2	1	32	1
令和2年	0	1	1	11	1	0	1	3	1	0	1	20	2
計	9	4	7	24	14	4	17	11	3	9	4	106	13

過去5年海難種類別発生状況



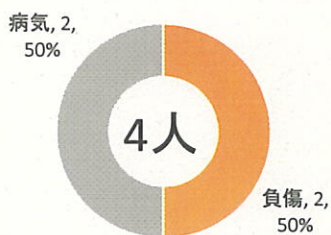
※運航不能(その他)…有人漂流、操船技能不足、機関取扱不注意、荒天難航等

過去5年間 人身事故の発生状況 (単位:人)

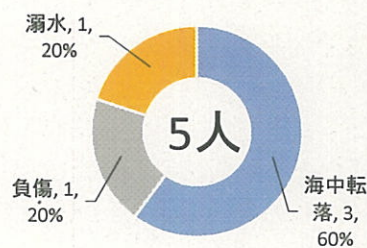
		平成28年		平成29年		平成30年		令和1年		令和2年	
事故区分	事故内容	事故者	死者・行方不明者	事故者	死者・行方不明者	事故者	死者・行方不明者	事故者	死者・行方不明者	事故者	死者・行方不明者
船舶海難によらない乗船者の人身海難	海中転落	5	2	3	1	7	5	6	3		
	負傷	7		9	1	8	1	7		2	
	病気	2		7	2	2	1	5	3	2	1
	溺水					1	1	1	1		
	自殺	1	1								
	その他										
	計		15	3	19	4	18	8	19	7	4
マリレジャーに伴う海浜事故	海中転落	2		4	4	1		3	3	3	2
	帰還不能			2		1		1	1		
	負傷	1								1	
	溺水									1	
	病気	1									
	その他										
	計		4	0	6	4	2	0	4	4	5
マリレジャー以外の海浜事故	海中転落	7	2	9	6	1	1	2	1	12	9
	負傷	2						1	0		
	溺水			1	1	3	3			1	1
	病気	1	1	1							
	自殺	2	2			5	5			7	7
	その他										
	計		12	5	11	7	9	9	3	1	20
総計		31	8	36	15	29	17	26	12	29	20

※「死者・行方不明者」は事故者の内数

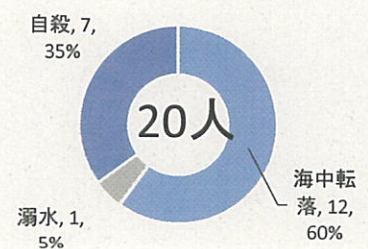
令和2年乗船者の人身海難



令和2年マリレに伴う海浜事故



令和2年マリレ以外の海浜事故



令和2年 船舶事故 事故例

4月25日 漁船転覆

ほや養殖施設補修作業中、両舷から土嚢袋を沈設する際にバランスを崩して転覆
乗組員2名中1名救助、1名死亡



令和2年 船舶事故 事故例

6月29日 漁船乗揚

うに漁中、海中の岩に乗り揚げ、直後に磯波を受けて転覆、海中転落した2名は自力で付近の岩場に上陸し、付近通行船舶により救助された。



令和2年 船舶事故 事故例

11月7日 航行不能

カゴ漁中に絡索し、航行不能になった漁船から救助要請。巡視船「はつかぜ」が曳航救助。乗組員に負傷等無し。



10月22日 航行不能

エンジン故障により航行不能になったサンマ漁船より救助要請。巡視船「きたかみ」により曳航救助。乗組員に負傷者無し。



令和2年 人身事故 事故例

10月7日 負傷

港内で着岸中の漁船甲板上において、魚倉内のイワシを甲板上に引き上げる作業を行っていたところ、誤って体勢を崩して魚倉内に転落し負傷。



10月17日 負傷

漁港において夜釣り中、誤って護岸と消波ブロックの間に転落し、岩盤に体を強打し負傷。（飲酒あり）

